

久谷(荏原・坂本)地区タウンミーティング（要約）

テーマ：久谷地区のまちづくりについて

令和2年11月16日（月曜日）

【市長】 皆さん、こんばんは。今日は平日の夜で、いろいろと忙しかったのではないかと思いますけれども、お集まりいただきありがとうございます。本日の開催には、久谷地区まちづくり協議会会長や坂本公民館館長をはじめ、役員の皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。全国的に新型コロナウイルスの感染拡大が広がる中、松山市でも11月に入り感染者数が増えています。松山市も市民の安全安心を守るため、愛媛県や医師会等と協力して、感染防止に取り組んでいます。本日のタウンミーティングも、感染防止対策を万全にして開催しています。松山市のタウンミーティングは、私が市長に就任をさせていただいてから開催しています。市長任期の1期目は、旧松山市、旧北条市、旧中島町の合わせて41地区を二巡りさせていただきました。そして、2期目に入らせていただき、地区別のタウンミーティングに加えて、世代別のタウンミーティングとして、人生の先輩方、子育て世代の方々、高校生、専門学校生、大学生の方々に集まっています。また職業別のタウンミーティングでは、農業分野の方々や商店街の方々に集まっています。このように、地域別、職業別、世代別といろいろなタウンミーティングをしています。現在、3期目に入らせていただき、これまで参加された皆さんから、「松山市の取り組みを知ることができてよかった、勉強になった」との声を多く頂きましたので、意見交換の間に広報タイムをとらせていただき、現地現場で汗を流している市の職員から、市民生活に役立つ情報を紹介しています。今日のタウンミーティングで通算123回目になりました。タウンミーティングで頂いたご意見はできるだけこの場でお答えをして帰ります。しかし、国や愛媛県に関係する案件や財政的によく考えなければならない案件は、いい加減な返事をして帰るわけにはいけませんので、いったん持ち帰らせていただき、1カ月をめぐりに必ずお返事します。やりっ放しにしない、聞きっ放しにしないというのが、松山市版タウンミーティングの特徴です。今日はこれからの久谷地区のまちづくりについて、有意義な意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

【男性】 初めに、まち協の活動をお話させていただきます。ご存知のとおり今年度はコロナ禍でスタートしたため、多くの人が集まる行事はまず無理だろうということで、まち協では、みんなで地域の問題を出し合い、議論しています。また、行政とのパイプ役になっているいろいろな課題を解決する活動もしています。そういった中で、まち協福祉部では、地域の高齢者や小学生の見守りなど、いろいろな活動をしていますけれども、この春に、地域の方から不要になったアベノマスクを寄付していただいたところ全部で440枚も集まり、荏原小学校と坂本小学校に寄付しました。また、福祉部の久谷協力会の方が中心に高齢者の方に

マスクを配布しようという意見が出まして、地域の独居老人や施設に配るため、マスク 3,000 枚を縫っていただきました。今、手元にお配りしていますので、サンプルとして見てください。それを今後、地域へ配っていただく女性の努力を、久谷の自慢として、冒頭にお話させていただきました。今から公民館のことで質問します。第 1 回のタウンミーティングの時に、前任の館長が市長に質問しました。公民館のイベントはいつも 2 階で開催していますし、避難所にもなります。しかし、この地域は高齢化が進んでいて、高齢者は「上がるのがしんどい」と言っています。イベント参加も少しずつ減っています。あ那时的回答は、「3 階以上の公民館を先に付けて、2 階を付けるなら荏原を先に」とお話しされた記憶がありますけれども、今どのような状況になっているのか。予算もありますので、いつごろになるのか、教えていただければと思います。

【生涯学習政策課長】 小学校へのマスクの寄付、ありがとうございます。公民館のエレベーターは、先ほどお話のあったとおり、まずは 3 階建て以上の公民館に付けていくことになっています。公民館は全部で 41 館ありまして、3 階建て以上のエレベーター未設置の公民館は、現在 6 館です。荏原公民館と坂本公民館は 2 階建てです。松山市では、限られた財源を効果的に活用するために、昨年度(令和元年度)、計画的に公民館を改修していく「長寿命化計画」を定めて、古くなった公民館から順次改修していく予定です。荏原公民館は昭和 42 年の建築で、築 50 年を超えています。平成 24 年に、耐震化工事に合わせてトイレの改修やバリアフリー化の工事をしました。エレベーターの設置は、設置スペースの確保や建物の構造上の問題、整備にかかる費用等から、「大規模改修に合わせて実施するのが望ましい」と考えています。改修時期は決まっていませんけれども、3 階建ての公民館のエレベーター設置が完了すれば、2 階建て公民館のエレベーター設置を検討していきたいと思いますので、ご理解をお願いします。

【市長】 いい返事ができれば良いのですけれども、全体的な流れは課長から話のあったとおりです。私が就任させていただいて 4 カ月後に、東日本大震災がありました。やはり、耐震化ができてない公共施設はよろしくありません。例えば小学校・中学校の校舎では子どもたちが過ごします。その小学校・中学校の校舎の耐震化、幼稚園・保育園の耐震化を行いました。しかし、消防団の方が出動してくれる消防団のポンプ蔵置所も耐震化してないと、いざ出動するときに壊れて出動できないのではダメなので、消防ポンプ蔵置所の耐震化も優先させていただきました。もちろん公民館も耐震化できてないといけませんから、順次、進めています。それで、松山市 41 地区で最後になっていた番町公民館の耐震化ができるようになり、次はエレベーター設置となりますけれども、まずは、エレベーターのない 4 階建ての味酒公民館を付け終え、その後、3 階建ての公民館に入っていけると思います。3 階建てでも、エレベーターを置くスペースがないとか、エレベーターを置くために建物や部屋のレイアウトを変える必要もありますので、長寿命化計画の中で考えていくのが一番いいお金の使い方だと思っています。「ここの公民館は、いつエレベーターを付けます」と言えると私も楽ですけども、もう少し掛かりますことをご理解ください。

【男性】 住みやすい環境づくりに関連して、農業生産基盤の整備を進めることをお願いしたいと思います。就農者の支援に積極的に取り組んでいるお話を聞きました。今、松山市では、農業指導センターでの実践訓練や、農水振興課での農業の後継者の育成支援、人・農地プランの積極的な取り組みなど、農業の振興に力を入れていただいていることに感謝を申し上げます。現在、久谷地域では、荏原地区だけでも、農地は約480ヘクタール、所有者は約1,200人います。しかし、土地を管理している農業従事者は、高齢化が進み、60歳代は少なく、70歳代、80歳代が担っています。今後5年、10年、農地を守れるのか不安です。また気候変動なのか、今年のように、秋ウンカによって不作になったり、所有している農業機械が壊れたりすると、「耕作をやめよう」という声も聞かれます。また農道や水路の整備ができていない農地は、人に頼んでも耕作してくれず、耕作放棄地が拡大して、作物害虫や衛生害虫も増えます。このような現状から、これからの農業振興を考えると、人・農地プランに取り組むソフト面に合わせて、農道や水路を整備するハード面も進めていただき、意欲のある農家が農地を利用し、農業の生産性が上がるようにしなければならないと考えています。そこで、久谷地区で、今まで以上の整備を進めてもらいたいと思います。また、防災対策の面からも、農道や水路の整備は大きな役割を担っています。私の町では、毎年、大雨のたびに、幹線の市道に土のうを積み上げ、通行止めになっています。これは、水路の付け替えと併せて、道路の建設をお願いしています。ソフトとハードの両面から農業振興を進めていくことは、まちづくりの課題と捉えていただきたいと思います。

【農林水産担当部副部長】 人・農地プランの関係でのアンケート調査など、荏原地区の皆さんにはご協力いただき、大変ありがとうございます。ソフト面とハード面での支援ということで、今、ハード面の支援のお話がありました。農道のような農業施設の改良工事は、久谷地区では、荏原地区と坂本地区のそれぞれの土地改良区の申請に基づいて、市で、優先順位などを考え、順次、工事を進めています。農道改良工事、特に農道の幅を広げる場合は、隣の地権者から土地を提供していただくとか、地元で1%または8%程度の工事費負担をしていただいた上で、工事を進めています。現在、農道を広げる工事は、荏原地区の改良区から7カ所の申請を上げていただいています。そのうち4カ所は、工事中です。残りの3カ所は、優先順位等も含めながら、地元の土地改良区の方とご相談し、順次、進めていきたいと思っています。今後、必要な農道の改良工事等は、松山市の農林土木課が窓口になりますので、土地改良区を通じてご相談ください。

【市長】 私の実家にも田んぼや畑があり、父が年を取ってできないため、親戚の方に手伝ってもらっています。軽トラが農道に入っていけると、作業効率が全然違いますよね。すごく気持ちが分かりますので、また言っていただきたらと思います。

【男性】 松山市の担当の皆さんには、お知恵を借りながら、平成29年度に、坂本屋の瓦の改修工事に多大なご協力をいただき、無事に新しい瓦になって、お遍路文化の一翼を担え

る活動につながっています。今回お願いしたいのは、スマートフォンが多くの場所で使えるようになっているので、お遍路さん、特に外国人の方から「坂本家ではWi-Fi（ワイファイ）がつかないのですか」との声が出ています。公共施設の坂本小学校までは来ているとお話は聞いていますけれども、公共施設以外にフリーWi-Fiが設置できないのかお伺いします。

【市長】 ICT戦略課が担当になると思いますが、本日は来ていません。いい加減な返事をして帰るわけにもいきませんので、一度持ち帰らせていただいて、お返事をさせていただければと思います。三坂峠を降り坂本屋まで来て、坂本屋からもう少し降りると、松山平野が見えます。久万の険しい山道から松山に来たなって感じられる、本当にいい場所だと思います。網掛け石や八ツ塚群集古墳など、久谷はお遍路文化を象徴するいい場所だと思います。また、ホテルまつりの新たな動きもあって、本当にありがたいと思います。できる限りの支援をさせていただきたいと思います。地域の宝のことで、ご紹介をさせていただきます。先ほどマスクを縫っていただいた話も宝だと思いますけれども、荏原城跡も宝です。皆さんもご存知のとおり、愛媛県指定文化財の荏原城跡は、平成30年7月の西日本豪雨で、東側と南西側、北西側の土塁の斜面が崩れ、当時の恵原町内会の総代から、復旧の相談を受けました。また地元議員からも、「地元が本当に困っています」と教えていただきました。復旧工事の期間や費用を計算したところ、4年間掛かり、工事費の合計は2,241万円になりました。地元の方だけで負担すると、大変なことです。愛媛県や市の補助金を活用しても、地元負担は747万6,000円必要になります。これを、何とかできないだろうか、職員も一生懸命考え、朝日新聞文化財団の文化財保護助成という民間の助成制度を見つけました。この助成を紹介するとともに、助成申請書類に書き慣れていない皆さんの申請事務の支援を松山市の職員がさせていただき、今年度230万円、3年度190万円の助成額が決定し、2年分の地元負担を約9万円に減らすことができました。4年掛かると申しあげましたが、残り2年分も、松山市が民間助成の申請を支援します。皆さん、「こんなにかかるのか」と思われたかもしれませんが、愛媛県の助成、松山市の助成、そして朝日新聞文化財団の助成を活用することで、地元負担を抑えることができました。復旧工事は、令和2年度から5年度までを予定し、今年度(令和2年度)は土塁の東側を、来年度(令和3年度)は土塁西南側の下の土砂と樹木を撤去し、土塁が崩れない保護工事を行います。これは、地元の声を教えていただいて、知恵と工夫と連携で、良い方向に持っていった代表例だと思います。これまで動いてくださった方々、力を貸してくださった方々に心から感謝を申し上げます。

【男性】 空き家問題をお聞きします。松山でも空き家が増えていて、当然久谷地区も増えています。すべての所有者が維持管理することが基本ですが、いろいろな事情でできないことがあります。空き家の適正管理は必要ですが、さらに空き家の利活用を進めることが必要ではないかと思っています。それで、利活用を進めるに当たり、空き家バン

クを運用する策があります。砥部町や今治市は空き家バンクを運営し、空き家の登録や売買につながり、空き家の削減が進んでいます。松山市に問い合わせたところ、松山市の空き家バンクの運用は、島しょ部で小規模の動きがあるものの、松山市全体では空き家バンクが運用されていないということでした。皆さんご存知のとおり、空き家バンクは、空き家を持っている方が貸したい、または売りたい空き家を登録し、それに対して、空き家を買いたい人や借りたい人にマッチングするシステムです。非常に理にかなったものです。空き家は、遺産相続などさまざまな理由で発生するものですから、なかなか抑えにくい現状もあります。しかし、発生した空き家を利活用することで、空き家がなくなり、また、地域の活性化にもつながると思います。松山市以外の自治体では、愛媛県の空き家バンクなどに登録し、かなり運用していると聞いていますので、松山市ではまだなのかなと思っています。

【都市整備部副部長】 今ご質問いただきました空き家バンクは、松山市では令和元年12月に国が構築運営を支援している全国の自治体の空き家情報などを閲覧できる「全国版空き家、空き地バンク」に登録し、現在、民間の力をお借りして、空き家の情報収集や取り扱いについて協議しています。もう少しお待ちいただければと思います。また空き家バンク開設の際には、ご協力をよろしくお願いします。

【市長】 今年度(令和2年度)末には運営できるように進めています。もうしばらくというところです。皆さん、空き家の難しいところは、やはり個人の財産という点です。個人の財産である空き家が崩れそうだったら、松山市から持ち主に「近隣の方のご迷惑なっていますから、何とかしてください」とお話しすけれども、行政が空き家を直すと、「個人の資産を何で税金で直すのですか」となります。これが空き家問題の難しさです。そこで、国に制度を少し直していただいたら、空き家の利活用が進むので、我々の方から、国土交通省に要望に行ったこともあります。空き家の利活用が進まない理由では、「お仏壇があるので貸せません」とか、「息子や娘が帰ってくるような気がしています」などがあります。昔ながらの町並みがある三津浜に、三津浜という地名と三津の魅力にはまってもらおうと「三津ハマル」という拠点施設をテスト的に作りまして、借りたい人と貸したい人のマッチングを行ったところ、7年間で63件がマッチングできました。大体1年間に9件ぐらいのペースです。すでに、空き家や空き店舗に人が入ったり、おしゃれな家具屋さんとか居酒屋さんとかパン屋さんになったりしています。また借りた63件の中で、22の方が三津への移住定住につながりました。やはり空き家を活用するのは、非常にいい方法ではないかなと思います。空き家バンクも、そろそろ運営できますので、もうしばらくお待ちください。

広報タイム「住宅用火災警報器の設置」

【男性】 本日は防災避難対応の新たな取り組みや提案、要望をさせていただきます。今年には大きな災害は少なかったかと思いますが、去年(令和元年)や一昨年(平成30年)は、避難指示、避難勧告が松山市でも発令されました。北条の立岩と、松山では坂本が、

おそらく2回連続で最初にその指示が出たと記憶しています。私は坂本でも奥になる窪野から参加していますが、避難場所である坂本小学校までは、近い人で2キロメートル、遠い人で3キロメートル以上あるため、避難をした人が少ないとの指摘を受けることもあります。それは避難の知識や認識が低いというより、なかなか高齢者が一人で移動できないという事情があると思います。そこで、提案ですけれども、私は今年の9月に、自宅の横で営農型の太陽光、いわゆるソーラーシェアリングを始めています。例えば、日中だと、仮に地域が全停電になったとしても、非常用電源を一つ用意していますので、スマートフォンなどの充電設備として地域の方にお使いいただくことは可能です。ただ、夜間になると、太陽が出てないため発電しません。私の家の隣がたまたま集会所になっています。ソーラーシェアリングがある場所から、直線距離で50メートルもありません。ここで提案ですけれども、仮に地域が夜間の一斉停電になったとしても、四国電力が2日間も3日間も完全停電を放置することはなく、おそらく半日から1日で復旧すると思いますけれども、夜、真っ暗な中で、家にいるのは心細いです。小学校まで行けないときに、一つのモデルとして、集会所に蓄電池を置いていただけないだろうかとの思いがありました。詳しくは、10月26日の愛媛経済レポートで取り上げていただいた記事を見ていただけたらと思います。10月24日に環境モデル都市推進課に相談に行きました。ご丁寧に対応していただきましたけれども、残念ながら今は制度がないということでしたので、今日この場で直接、市長さんにお話させていただきました。

【防災・危機管理課長】 ご提案をいただきありがとうございます。災害時の避難所での電気の確保は非常に重要だと考えています。そのため、松山市では、ガソリン式などの発電機を275台備蓄していて、そのうち191台は、避難所となる小学校や中学校、保育園、公民館の本館などに配備しています。先ほど言われたとおり、避難所が遠くて近くの集会所などに避難されることもあると思います。そういう場合で停電したときには、災害対策本部にご連絡いただければ発電機などをお届けすることができます。また蓄電池の設置には、自主防災組織や連合会の活動に対する補助金として、「そなえる補助金の基礎支援金」「そなえる補助金のモデル事業」「つながる補助金」の三つの補助金を利用できます。そのうち「そなえる補助金の基礎支援金」は、事業費の3分の2、上限10万円ですので、例えば15万円のものを購入した場合、5万円は地元の自主防災組織で出していただき、残り10万円を補助します。今月(11月)末まで申請できますので、地元の方としっかり話し合ってください、申請していただけたらと思います。

【男性】 今、避難場所の話がありました。坂本地区の避難場所として、坂本公民館本館や中組という地区が、松山市の土砂災害ハザードマップ上の危険エリアに存在しています。そのため、災害発生時の対策をどうされるのか、また見直しの思いがあるのかの質問がまず1点です。もう1点は交通弱者のことをお聞きします。先般、伊予鉄道が最終便を一部削減するという一方で、民間事業者の伊予鉄道はかなり厳しい経営状況にあって路線の再編成

の話も聞いています。久谷地区では、現在、丹波線が走っていますけれども、実際に乗っている方は本当に数名で、これは将来的になくなるのではないかと心配しています。万が一、伊予鉄道が廃線すると公共交通の路線がない場所ですから、いろいろ調べてみると、兵庫県では大手自動車メーカーが運営している事例がありました。日本全国でいろいろな動きがあるようですので、松山市では、公共交通をどのように考えているのか教えていただきたいと思えます。

【防災・危機管理課長】 確かに坂本公民館の本館は土砂災害警戒区域の中に端の方が少しかかっている状況を把握しています。また実際、自主避難所等を開設する場合は開けています。土砂災害警戒区域に入っていますけれども、2階以上に避難することが可能であれば、避難場所を開設するようにしています。中組の方は、土砂災害警戒区域に入っていないものの、横に川があります。そのような状況も常に災害対策本部でしっかりと確認し、安全な避難所を開設をお知らせしていますので、ご理解いただけたらと思えます。

【都市整備部副部長】 現在、久谷地区の公共交通の丹波線は、調査の結果、乗車人数が0人から3人程度になっています。非常に乗る方が少ない現状です。こうした中で、松山市では平成31年3月に、市内全域を対象に利便性の高い公共交通網を作る「松山市地域公共交通網形成計画」を作りました。この計画では、市内の四つの伊予鉄バス路線の丹波線、立岩線、五明線、河中線で、乗り合いタクシーなどを活用した交通への転換を検討しています。現在、地元の代表の方や交通事業者と協議しています。久谷地区では、令和2年8月にまちづくり協議会、9月に地区総代会、10月に交通事業者と、丹波線の現状や今後の代替交通の方向性の意見を交わしています。今後、受け皿となる交通事業者との調整を進めていきたいと考えています。

【市長】 代わりとなる公共交通の受け皿を作っていきたいのが松山市の思いです。現在、松山市は赤字バス路線に補助しています。平成20年から丹波線に、平成23年からは上林の方に行く拝志線に、赤字額の一部を補助していますけれども、令和元年度の数字で、丹波線に817万円、拝志線は64万円となっています。伊予鉄バスからは、「昨今の新型コロナウイルス感染症の影響などもあって、丹波線の維持も極めて難しい状況です」という回答が返ってきています。バスがなくなって移動が困ることをできるだけ避けたいと思っています。興居島では「過疎地有償運送」と言って、有償とは「お金が要りますよ」ということですけれども、少ない金額で運送できる仕組みができています。全国でもそういう例があります。久谷地区でも、「もうバスがなくなったから移動ができない」ではなくて、受け皿ができて、乗り合いタクシーのような形になったらいいなと思っています。我々も頑張っっていききたいと思えますので、ご理解ご協力をいただけたらと思えます。

【男性】 久谷地区の南の端にある菰川(つづらがわ)地区のことです。JRバスのバス停が、平成29年1月から廃止になっています。経緯は、平成24年3月に開通した三坂専用道路の当初の道路建設説明会でバスのことが気になって確認したところ、国交省

は、「JRバスは専用道路を通らず、今までと同じ旧33号(今の445号線)を通るので大丈夫です」と言ってくれました。しかし、平成28年4月に、松山市から、「バスは三坂専用道路を通るため、平成29年1月からバス停は廃止になります」と連絡がありました。カーブが多く、冬場に雪が積もるため安全面を考えて三坂専用道路を通るといことですが、ちょっと話が違うなと感じました。それなら「三坂専用道路にバス停をつけてください」とお願いしました。「乗り入れるのに広いスペースがあるので何とかならないか」という相談に、「専用道路はバス停が付かないため停まるのは難しいです」と言われて、今になっています。今、「こんなに不便なのか」と実感している状態です。バスが目の前を通っているのにちょっと歯がゆい気持ちがあつて、久万から松山行のバス自体が廃止になるのであれば話は分かります。近い町まで12キロメートルもあつて、孤立している状態で、独居老人も困っていて、何とか交通手段がないものかと思っています。

【都市整備部副部長】 先ほどご説明したとおり、現在、久谷地区全体で計画を考えています。今回頂いたご意見も含めて、協議を進めますけれども、今後、皆さんのところにアンケートをお配りして、いろいろな意見をお聞かせいただき、私どもでできることを考えていきたいと思っています。

【女性】 教育と子育て支援のことです。タウンミーティングに参加をするということで地域の子育て世代のお母さんたちにいろいろ聞いてみました。その中で意見が多かったのが、地域の遊具のある公園に駐車場がなく、荏原小学校区の場合、家から公園まで距離があつて、歩いて公園に行けない家庭がたくさんあるとのことでした。地域に密接した公園は住宅に囲まれていて、町内でない人が遊びに行くと、騒音で嫌がられます。家があまり立て込んでいない広い公園には車を使わないと行けないのに、駐車場がないので車で行けません。最近、校区内でイノシシが頻繁に出没して、高学年の子どもや自転車で行くことのできる子どもに「一人で行っておいで」と言っても、イノシシが出たらいけないから子どもだけで行かせるのは心配で、ついて行きたいのに車を停めることができないから、公園に行かせるのはやめようという話になります。駐車場がある公園は、杖ノ淵公園やえひめこどもの城など大々的に集まれることを目的とした公園になります。しかし、そこに行くと人が多すぎて、コロナの心配もあつて、怖くて行けません。そのため、お母さんたちは「校区に1カ所でもいいので、数台でもいいので、車を停めることのできる公園があつたらいいな」と言っています。乳飲み子を連れていると、ベビーカーで歩いて行くのはなかなか大変で、「ストレスがたまつたときに、息抜きに車で行ける公園が欲しいな」という意見を頂きました。あと1点は、前公民館長や現館長に以前にもお願いしたのですが、荏原小学校の児童クラブの第一の方はもう建物がかかなり古くなっています。荏原小学校は1年生から6年生まで預かっていますけれども、狭いワンルームに、2カ所で総勢100人近くの子どものさんがいます。

コロナの影響で今年の支援員さんはコロナの恐怖と子どもたちの相手で、心のストレスがたまらなかったそうです。ワンルームなので、支援員さんも息抜きをする場所がなく、子どもがパニックを起こしたときに、他の子どもと引き離す場所もない状況です。この公園の駐車場完備と児童クラブのあり方のご返答をお願いします。

【都市整備部副部長】 言われたとおり松山市の公園は、総合公園のように多くの市民の方に利用していただく大規模な公園から、身近にある街区公園、お住まいの地区でしたら、大体250メートルの範囲内に一つある規模で設置しています。また、500メートルぐらいになると、もう少し大きい規模の公園も整備しています。確かに公園の駐車場は遠方から訪れる利用者を想定していて、大規模な公園や観光利用などの公園としては、この近くだと杖ノ淵公園があります。また、奥久谷のソフトボールを利用する公園には10台程度の駐車場を整備しています。基本的に、そのような公園以外は、歩いて行ける公園ということで、駐車場を設置していない所があります。公園の規模自体や駐車場のスペースがいくら取れるかも考えないといけません。久谷地区には街区公園が13カ所、近隣公園は1カ所、緑地公園が1カ所で15の公園があり、そのうち奥久谷公園しか駐車場は整備されていません。できましたらお近くの公園を利用していただくのが一番いいのですが、今頂いたご意見について、公園緑地課と協議をしたいと思います。

【市長】 今お話を聞かせていただいて、今年は特にコロナのことがありますし、こちらの地区になるとイノシシのこともありますけれども、転換点と言いましょうか、以前は、各地区の公園に駐車場を設けることはちょっと難しいということでした。石手川公園は、以前は駐車場がない公園でしたけれども、ちょうど前市長から引き継がせていただき、比較的中心部に近い緑の多い場所だということで、石手川沿いを三つのゾーンに分けて整備をする中で、ベビーカーが必要な子どもを車に乗せて来やすい公園にすることができました。しかし、他の地区の公園では、なかなかそうになっていないのが現状です。例えば、久谷地区の皆さんで、「ここの公園だったら、ちょっとスペースあるのではないか」「ここだとみんなも遊びやすいのではないか」「ここの公園に何台分ぐらい駐車場を作ってください」という提案をまとめていただくと、動けるのではないかと感じたところです。正式な回答ではなくて、私の今の考えで申し訳ないですけども、どうやったらできるのかを考えたときに、そのような方法があるのかなと感じました。それと荏原の児童クラブは、私もこちらに来させていだいたときに見せていただきました。聞きっぱなしにするのが嫌いなものですから、地元の児童クラブに説明をするように申し上げ、私も報告を受けましたけれども、ちょっと記憶が定かではないため、1カ月をめどに必ずお返事をさせていただきます。

広報タイム「まつやま謎解きクイズラリーで久谷の魅力再発見」

【男性】 私は教育の中の特に幼稚園のことを質問します。坂本幼稚園は、園外保育を利用するなど、非常に魅力あふれる幼稚園だと思っています。ただ、子どもたちの数が少ないですから、今年度は入園者が集まりませんでした。最初に申したとおり、魅力がないわけではないと思っています。松山市立の幼稚園で、数少ない貴重な幼稚園だと思っています。漏れ聞いているところ、地元の子どもが他の幼稚園の方に通う理由の一つとして、坂本幼稚園は預り保育ができないということが挙げられたと思っています。この久谷は、昭和38年に、県内でも一番最初に文教宣言を行いました。これは当時の愛媛新聞によりますと、県内ではもちろん一番だったんですけれども、全国的に言っても最初ではないかと思っています。「久谷は、文化的な面とか経済的な面では他の地域には太刀打ちすることができない。そこで、この小さな村で、大切なことは教育である」と当時の趣旨に書かれているようです。久谷地区には、幼稚園も小学校も中学校もありますけれども、一番最初、地域に根差して、地域を愛する大人になってもらうのに、坂本幼稚園は大切なものだと思っています。私も坂本幼稚園を卒園しました。ぜひ、坂本幼稚園も預り保育ができて、地元の子どもが地元の幼稚園に通い、また、通園するのに車で送り迎えをすることも可能なため、他の地域からもこの魅力ある幼稚園に来ていただきたいと思っています。今後、市の方にも坂本幼稚園の魅力を増やす取り組みをしていただくとともに、どのような方針としているのか、お聞きできたらと思います。

【市長】 松山市の幼稚園や保育園の園庭の芝生化は、今は小学校や中学校にも広がっていますけれども、平成22年に就任してから、初めて行ったのが坂本幼稚園です。芝生化には五つのメリットがありまして、子どもたちは砂や土より芝生があると、けがをする心配がなく遊べますから、体力も向上するというのがまず一つ。そして、子どもは、遊びと遊びがぶつかります。「私はこんな遊びしたい」「私はこの遊びしたい」となると、子どもたちで妥協したり、遊び方を工夫したりする。それで、コミュニケーション能力が鍛えられ向上します。また、周辺の砂埃対策になる、熱中症対策になる。そして、芝は地域の皆さんと一緒に植えますので、地域の皆さんが芝生を植えてくれると、「芝生は育っているかな」と、園への関心につながっていくので、地域を挙げて子どもを育てる環境ができます。それで芝生化を行っていますけれども、その第1号が坂本幼稚園でした。私も芝生化ができてとてもうれしかったのを覚えています。今年度は、坂本幼稚園の良さをPRしようと、広報まつやまや市政広報番組で特集を組ませていただきました。そして、預かり保育ですが、皆さんと意見交換をさせていただいて、これは預かり保育が必要だなと思いましたので、先日、保育・幼稚園課長が来まして、「預かり保育をさせてください」との話があり「どうぞやりましょう」ということになりました。偶然ですが、今日、11月16日から預かり保育を開始しています。今まで小規模な園ではやらないとの先入観がありましたけれども、今日から実施しています。また、園児募集のチラシを作成して、坂本公民館や集会所に掲示するほか、より多くの人に知ってもらえるよう、周辺地区の松山市浮穴支所や伊予鉄バスの森松営業所、南部の商業施設な

どに設置したり、市のホームページで紹介したりしています。今後も園の魅力を周知しながら、園児募集に力を入れていきたいと思えます。また、幼稚園と小学校・中学校は意味合いが違うかもしれませんが、興居島小学校・中学校は、他の地区からフェリーで渡って来られています。日浦小学校・中学校も、他の地区から来られています。私は、前の仕事でいろんなところを見させていただき、できたら、幼稚園、小学校など子どもの集まる場所は残したいです。そのため、皆さんも口コミで、「坂本幼稚園はいい幼稚園です」と広げていただくのも大事なことで、ぜひお願いしたいと思えます。皆さん、自分の地区のことを誇りに思わないと、他の地区の人が褒めてくれますか、動いてくれますか、やはり地元の方々が「私の地区はいいところですよ」と広げていただくのがすごく大事なことだと思います。我々も頑張りますけども、皆さんもお力添えいただいたらと思えます。

【男性】 山間地の方の火災のサイレンが電子音に変わり、山仕事なんかしていると、若干聞こえが悪いです。風向きによってはもう全く聞こえないところがあって、消防活動の初動がどうしても遅れるときがあり、私は副分団長していますけれども、団員の方に迷惑を掛けることができました。そうしたときに頼りになるのがメールですけれども、火事が起こってメールが来て行こうとしたときに、どうしても消防自動車が先に出てしまい、後から軽トラなんかで行くわけです。しかし、招集したメールには、火災場所が「どこそこの何百メートルぐらい付近」としか書いていません。地元の坂本地区だったら大体見当がつくのですけれども、荏原地区の方へ入っていくと、結構、道も迷路みたいになっていて分かりにくいのです。以前のメールには、地図と一緒に付いていて、分団長とか副団長にお聞きすると、最近その地図は、添付されなくなったということでした。そのため、「さあ、どこ行ったらいいのか」ということが度々あって、非常に困っています。消防団活動に支障が出ないような対応をお願いできないかと思っています。

【防災・危機管理課長】 モバイル松山消防のことだと思いますけれども、実際以前のメールには地図が付いていました。実は、地図を付けることによって、容量が重たくなり、メールを配信しても届くのに時間がかかってしまうことがありました。そのため、団本部の方と話し合っただけのメールにしようとなりました。確かに場所が分かりにくいことはあると思えます。今、ちょうど総合防災システムを作って、そのシステムの中で新たなメールシステムを検討しています。地図を付けるかどうかははっきりと言えないため、持ち帰らせていただき、今回のご意見を消防の方と協議しながら、現場が分かりやすい手段を考えていきたいと思えますので、よろしくお願います。

【市長】 もう予定の時間になりました。本当は言いたけれど言えなかったという方は、後ほど、わがまちメールをご紹介しますけれども、意見をいただいた方がいいですから、遠慮なく意見をお伝えいただけたらと思えます。先ほどお話のありました防災行政無線

は、各地区に置いてはありますが、防災行政無線のサイレンスピーカーに近い方からは「やかましい」と、遠い方からは「聞こえない」と言われます。今、ペアガラスの家が増えています。また、車通りが多い場所だと聞こえにくいとか、雨風がひどい日だと聞こえにくいことがあります。それで、各自治体によっては、さまざまな方法をとって、戸別受信機を各ご家庭にお配りしている事例もあります。しかし、その場合、お金もかなり掛かります。松山市は皆さんの税金で仕事させていただいているので、限られた予算の中で、知恵と工夫でやることはないだろうか、皆さんのご家庭に配られる広報まつやまの一面の一番下に、「災害時などの防災行政無線放送は電話で確認できます」と電話番号を入れています。防災行政無線が流れたけど、何を言っているのか分からないと思ったら、ここに電話していただいたら分かるようになっていました。また皆さんは、テレビから一番多く情報を入手されているので、テレビ局に情報発信をお願いしています。このように、さまざまな手段で防災情報をお伝えしていますので、ぜひとも情報を取りに行くという気持ちでお願いできたらと思います。今日は、本当に皆さん地区のことを思って、すごく建設的なご意見をいただいていると思いました。確かにどうやったらできるのかと、少し頭をひねり、知恵と工夫でできることがあります。戸別受信機を配布する方法もありますけれども、それだとかなりお金が必要になったり、音を絞っていたり、電池がなくなったりすると聞こえないことがありますので、どうやったらできるかと、知恵と工夫で実施したお話をさせていただきました。乗り合いタクシーやコミュニティ交通もぜひやりたいと思います。これはもう皆さんのお力添えがないとできません。家でごろんとテレビ見ていた方が楽ですし、何も動かなかった方が楽ですけれども、みんなが少しずつでも動いて、何かいい形ができればと思います。ぜひとも皆さん、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。今日は、さまざまなご意見いただきました。できるところから、市政に反映したいと思います。本当にありがとうございました。

—了—